

小崎 恭弘氏 資料



地域ネットワークで支える子育て

父親の育児が社会を変える

大阪教育大学教育学部
NPO法人 ファザーリング・ジャパン顧問
小崎 恭弘
kozaki@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

父親がはやっている?イクメンブームとは

- ドラマ、テレビで取り上げられるようになった
- 海外のセレブといわれる人々の父親アピール
- 父親関係の本が多く出版されている
- 父親たちのグループが多く作られている
- 保育所、幼稚園、学校の行事への父親の参加の増加
- 街中で子どもを連れている父親を見かけることが多くなった

イクメンブーム!



イクメンとは?

積極的に育児を行う男性。単に子育てしているだけではなく、主体的に子育てを行い、楽しみ、そしてママと子どもと一緒に家族を創っていく、覚悟と責任のある父親

3

相次ぐ「首長」の育児休暇取得 2010年

- ・4月 東京都文京区長 2週間
- ・6月 長野県佐久市長 5日
- ・9月 茨城県 龍ヶ崎市長 5日と10日
- ・9月 三重県 伊勢市長 3日
- ・10月 大阪府箕面市長 16日
- ・10月 広島県知事 時間単位で合計20時間

- ・社会の規範として、適切な市民生活のモデルを作る
- ・制度の主体者、支援者としての意義づけ
- ・日本的前例主義から一点突破全面展開作戦

4

ファザーリング・ジャパン

「Fathering=父親であることを楽しむ」をモットーに、父親の子育てを支援しているNPO。

- ・代表 安藤哲也
- ・個人会員120名、サポーター500名

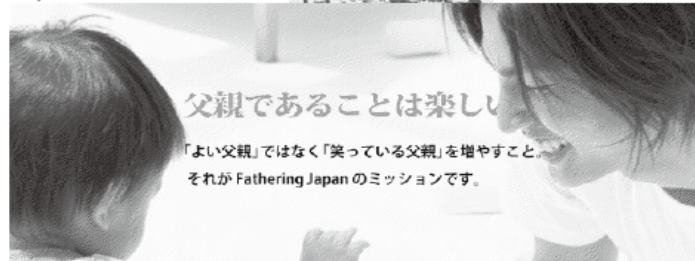
- ・主な事業は、セミナーやフォーラム、ファザーリング・スクール、子育て関連調査、パパカ(ぢから)検定、企業との提携、父子家庭支援、パパ育休推進 etc



ファザーリング・スクール



子育てパパカ検定



父親が注目される理由

1. 少子高齢化の社会的な課題

年金、保険、老後、今後の社会に対する不安

2. 育てる側の不安とその抑止

児童虐待、育児不安、子どもが巻き込まれる犯罪

3. 育つ側の不安定さ

少年犯罪 育てやすい子どもの危機

4. 男女共同参画社会の到来

男女ともに豊かに生きる社会

5. 企業の経営戦略と人材戦略

6. 男性自身の家族志向 幸せの価値の変革

これまでの子育てにおける父親の存在

○これまでの父親の立場

「二番目の親」「遅れてきた親」「母親のサポート役」「叱り役」
「最後に頼りになる人」「思春期に登場すべき人」

これらは本当なのか？

- ・母親中心主義
- ・精神的な存在
- ・経済的な存在
- ・母親を支える存在

父親を子育てから遠ざける合理的根拠
父親の親としての責任回避

このことが

- ・母親の育児の過度の負担につながる
- ・子どもの育ちにとっての有効な資源の欠如
- ・「母親=子育て」「父親=仕事」の公式の固定化

働き続ける男性

- ・過度の長時間労働
- ・30代～40代が最も働かなければならない
- ・育児世代の父親と層が重なる
- ・長時間労働・長時間通勤のため帰宅時間が遅くなる
- ・母親が育児・家事を一方的に担う
児童虐待の一因になっている

男性が育児できない社会の功罪

- 男性が追い詰められている
自殺3万人のうち70%は男性 過労死 メンタルヘルス
- 女性が追い詰められている
児童虐待の60%は実母
- 子どもが追い詰められている
家庭内の暴力・殺人事件の増加
- 家族が追い詰められている

父親の育児は5人を幸せにする

1. 子ども 多様な価値観
2. 母親 育児不安からの解消
3. 父親 生きている意味の確認
4. 企業 効率化とメンタルヘルス
5. 社会 少子化対策
豊かな社会の実現

父親支援とは

- ・父親が親としての本来の力が発揮できるようにするための、支援者のかわり方や環境の整備の総称。
 - ・単に父親のためのプログラムをすることだけではありません。
 - ・具体的には以下の4つのが達成できるように、様々に支援することです。
- 1.父親が子育てについての正しい知識や理解、価値観を得られるように父親をエンパワーメントする。
 - 2.父親が母親とのパートナーシップについて理解し、夫婦ともに子育てができるようにする。
 - 3.父親が仕事や、生活、家庭、地域との良いかわりができるように、ワークライフバランスを意識した生活者になれるようにする。
 - 4.父親自身が積極的に育児や家庭生活の主人公として暮らしていけるように、地域社会の環境に対して関わりやネットワークができるようにする。

父親支援は行政課題の解決の道しるべ

個別的意義

児童虐待の防止
 女性の活用と社会進出
 男性のメンタルヘルス対策
 子どもの育ちの促進
 家族と家庭の安定
 結婚への機運の醸造
 ワークライフバランスの推進

社会的意義

少子化対策
 男女共同参画の推進
 高齢者の地域活動対策
 次世代を育てる社会的責任
 男性ネットワークの構築
 地域の活性化
 人権意識の向上

父親支援はいいことだらけ!
 閉塞感を打ち破る新しい施策

父親支援の課題

- ・父親の参加が少ない
- ・父親同士が会話をしない
- ・父親が何を考えているのかわからない
- ・忙しい
- ・興味を持ってくれない
- ・つながらない
- ・会話が続かない
- ・ママがいないと何もできない

これらの共通項は・・・

子育ての未経験、子どもの無理解、コミュニケーション能力の欠如
男性が市民的な成熟がない

まとめ

- ・父親支援プログラムは、子育て支援のパラダイムシフト
- ・これまでになかった発想なので未知数である
- ・その分大きな可能性をはらんでいる
- ・父親が変化することにより、これまで固定化・形骸化していた社会システムに変化が起きる
- ・男性の変化を、女性、子ども、家族、会社、地域、社会の変化へと、つなげていく視点が必要(父親ドミノ倒し)
- ・単独でなく地域や保育関係者、NPOなどを巻き込んでいく
- ・父親のネットワークは新しい地域の核になれる
- ・子育て支援、人権、男女共同参画、環境、平和の5つは、行政が政策を行う場合の基礎となる。